



# 普及センター もりおか

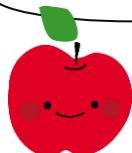


インターネットでオールカラーの記事が読めるよ！

いわてアグリベンチャーネット 普及センターもりおか

検索

第140号平成26年1月23日発行  
盛岡農業改良普及センター  
盛岡市内丸11-1 盛岡地区合同庁舎  
TEL 019-629-6730 FAX 019-629-6739



## りんご園への天敵資材導入に挑戦！



盛岡地域ではJAいわて中央りんご部会、滝沢中央共同防除組合などで、交信攪乱剤を利用するなどして農薬の使用量を削減する取り組みを実施していますが、毎年のようにハダニ類の発生に苦慮しています。そこで、盛岡農業改良普及センターでは、平成24～25年の2か年にかけて、盛岡市黒川、紫波町長岡、滝沢村元村などのりんご圃場において、露地栽培ではあまり導入事例のないカブリダニ剤（商品名：スパイカルプラス）の設置を行い、その効果について検証しています。

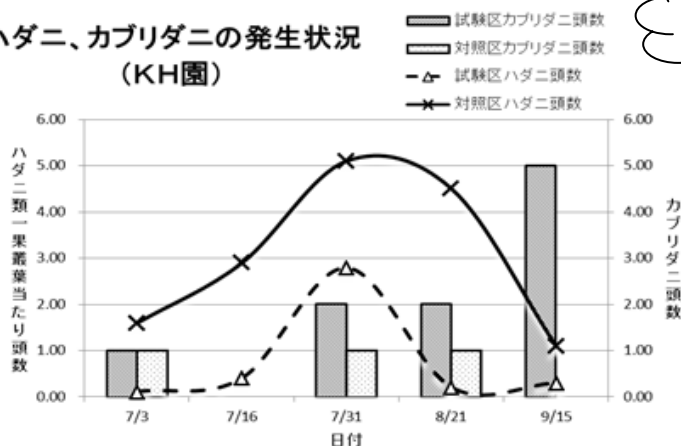


カブリダニパック剤

平成25年は7月上旬にカブリダニ剤を設置し、昨年同様、対照区と比較してハダニ類の発生を抑制する効果が認められました。昨年と同様の樹でハダニの発生状況を確認するとハダニの初発が遅れる傾向も確認され、継続した使用で効果があがる可能性も示唆されました。

カブリダニ剤は現在、高価なため普及は難しいところがあります。しかし、土着のカブリダニ等を保護する農薬散布体系及び下草管理、徒長枝管理などの栽培体系を組み合わることで使用量を減らし、コスト削減している事例もあり、普及に向けて今後さらに検討していきます。

ハダニ、カブリダニの発生状況  
(KH園)



カブリダニ剤使用によりハダニの発生が抑制！  
複数年の使用によりハダニの密度が低減！？

天敵が増えます  
ように・・・



リンゴの樹にカブリダニパック剤を取り付けます！

## 雫石町産米の消費拡大を目指して～モデル経営体「(有)ファーム菅久」～

盛岡農業改良普及センターでは、起業経営の高度化を目指す『モデル経営体』を選定し、各経営体が直面する課題解決の支援を行っています。

今年度の『モデル経営体』の1つ、「(有)ファーム菅久」（雫石町）は平成11年に法人化し、自社で生産した米や小麦を使用し、うどん・そうめん・米粉商品（米粉麺、米粉スナック）の委託加工・販売を行っています。この加工販売部門は、代表取締役の菅原久耕氏の後継者である菅原紋子氏が中心になって取り組んでいます。特に米の消費拡大を目指し、**平成25年3月に新たに食品乾燥機・製粉機を導入し、米粉の製造をしています。今後は麺や製菓向けに米粉を生産していく予定です。**

そのため、岩手県パン工業組合技術アドバイザーの武山照憲先生や岩手県工業技術センターから米粉の特徴や製粉の方法などの指導を受け、製菓に適した米粉の試作に取り組んでいます。また、米粉麺の商品改良も進めており、同センターからパッケージデザインのアドバイスを受け、昨年12月下旬から平麺タイプの米粉麺「まいこめん」の販売を行っています。

自社の米粉を自信を持って提供できるよう、専門家の指導を受けながら課題解決に取り組んでいます。

↓ 菅原紋子氏



### 普及活動発表会のご案内

当センターでは昨年から外部評価委員会に合わせて業務成果を発表する会を開催しており、日頃、お世話になっている普及パートナーの皆様に参加のご案内をしております。ご都合がよろしければ会場まで足をお運びいただき、ご意見を頂戴できれば幸いです。ご不明な点等ありましたら、気軽にお問い合わせ下さい。

記

- |        |  |
|--------|--|
| 1 開催日時 | 平成26年3月4日（火） 午前10時から12時まで                                  |
| 2 会 場  | 盛岡地区合同庁舎 8F 大会議室   |
| 3 発表内容 | 各課題20分程度の取り組み発表と意見交換<br>①新規就農者の確保育成 ②米、麦、大豆経営の強化 ③花き産地力の強化 |
| 4 参集範囲 | 管内農業関係機関、農業農村指導士、普及パートナー                                   |

### <放射性物質検査について>

- ・盛岡管内の農畜産物の放射性物質検査は本年度全て不検出～基準値以下でした。
- ・26年も安全確認のため実施予定です。

※なお、現在も国の出荷制限指示があるのは、管内では盛岡市の山菜「コシアブラ」のみとなっています。

県南部では依然として山菜・キノコを中心にいくつか基準値越えの品目が残っていて出荷制限を受けています。